



上 宇和田地区

4月21日(日)上宇和田農業集落センターで、大蛇4体・藁人形1体が作られました。

大蛇には鑑札がついており、この鑑札は通行許可の役割を果たしています。これで、地区内に入ってきた悪い病などを大蛇が自由に追い回すことができると言われています。

村境の4か所に据え付けて、辻固めを行いました。



神 扇地区

5月19日(日)神扇集会所で、大蛇2体が作られました。

集会所の軒先に吊し上げて大蛇の形を整えた後、竹竿に巻き付けます。それぞれに大きな草鞋を添えて、地区の無病息災を祈願します。大きな草履は、村に大男がいる証と言われています。

神扇地区の東西両端に立てて、辻固めを行いました。



米どろ幸手に受け継がれる藁文化 辻縄

辻縄というのは、藁で大きな蛇を作るもので、この行事は大蛇作り・大蛇こしらえ・辻切り・春祈禱とも呼ばれています。

まず、上あご・舌・下あごの部分それぞれ作ります。

上あご・舌・下あごの作り方は同じで、藁を1本ずつ編み、スリッパの様な形に編みます。それを3個縛り合わせて蛇の頭の形に整えます。

胴体部分は、藁を足しながら縄状に編んでいきます。

最後に、目玉やお札を付けて完成となります。

この藁を使った伝統行事の辻縄は、大蛇を村境に設置することで、ほかの村から自分の村に病気などの悪いものが入ってくるのを防ぐための、無病息災を願う行事となっています。

今回は、3つの地区の辻縄を紹介します。

幸手市郷土資料館(下宇和田58・4では、大蛇の展示も行っています。ぜひご覧ください。



惣 新田三田地区

4月14日(日)三田集会所で、大蛇4体が作られました。

村の中に悪いものが入ってこないようにする「ふせぎ」と呼ばれるもので、「大蛇が良く働いてくれるように」とお神酒を飲ませた後、無病息災を願い、西関宿境・宇和田(上宇和田)境・惣新田中新田境・九郎右衛門境の4か所に据え付けて、辻固めを行いました。

